



# CANOA だより

# 49

2011年12月発行

文・写真\_鈴木真由美 編集\_橋口博幸 発行\_ブラジル事務局  
Praia do Esteveao s/n, Canoa Quebrada, Aracati-CE-Brasil CEP: 62800-000

## 会員費納入のお願い

「光の子どもたちの会」では、皆様からの会費や寄付金によって、活動が実施されています。平成22年度では、会費・寄付金の合計額が全体収入の37.5%となっており、その内会費収入はわずか3.7%に留まっています。会費は年会費とさせていただきます、Canoaだよりをお届けする際に、会費納入状況をお知らせする紙を付けさせていただきます。

日本事務局では、毎偶数月に現地への送金を行っていますが、目標額を達成できず、10月は送金を断念せざるを得ない状況となってしまいました。現地での活動が充実し始め、助成金をいただいた活動も実施していますが、事務局経費や、日本事務局での活動に対しては皆様からの支援と協力があってこそ成り立つものです。それがなければ、カノアでの活動を支援することはできなくなってしまいます。国内での活動を活性化させ、定期的なイベントを実施していくことで、今まで以上に会員の皆様同士がつながる機会を積極的に設けていこうと思っています。そして、スタッフ、支援者や協力者同士の顔の見える関係を目指していきたいと考えています。

今まで郵便振替のみでご不便をおかけしていましたが、他提携銀行からの振り込みも可能となりました。皆様のご都合により、振り込み方法をお選びいただければと思います。会費納入や寄付に関してはお気軽に日本事務局までお問い合わせください。

これからもどうぞ、「光の子どもたちの会」をよろしく願いいたします。

### 郵便振替

口座番号：00280-1-41787

加入者名：光の子どもたちーカノアの活動を支える会

\*団体名と加入者名が異なりますのでご注意ください。

### ゆうちょ銀行振込

名義：光の子どもたちの会

店名：028 店番：928

普通預金 5552594

長らくCanoaだよりをお待たせしてしまい、申し訳ございませんでした。本来ならば、この年末年始号の数か月前(九月頃)に前号が届いているはずだったのですが、現地での印刷に問題が生じ、発送が二ヶ月も遅くなってしまいました。いつも楽しみにして下さっている皆様、本当にすみませんでした。毎回六ページと、枚数も多くなく、A3の両面印刷でお届けしているのですが、市内の印刷所でA3印刷を行っておらず、少しずつ印刷して、集めてを繰り返していたのですが、最終的には州都であるフォルタレーザ市の印刷所まで足を運ばざるを得なくなりました。こんなに苦勞させられたのは初めての経験です。だったら、日本で印刷、発送してもいいのではないかとこの声も聞かされてきましたが、少しでも皆さんにブラジル、カノアの風をお届けしたい。その気持ちから、できる限り、ブラジルからの発送を続けていきたいと考えています。こうしたお便りも、私たちが一方的にお届けするだけでなく、会員、支援者の皆さんの交流の場としても有効的に活用していけたらと考えています。今までは紙面を通じての交流が実現できていなかったのですが、皆様からのご意見、ご感想、イベント情報など、事務局の許可が得られたものに関しては、積極的に掲載していきたいと思っています。ぜひ日本事務局までお寄せください。

## 二〇一一年を振り返って

現在、光の子どもたちの会の学校では、四人の先生が勤務しています。今回はその一人、フラビアーニから今年を振り返ったメッセージを頂きました。

### フラビアーニ・ドス・サントス・ホーシヤ (二・三年生学童教室担任)

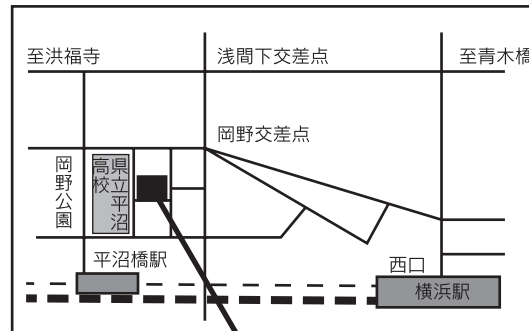
今年、地域の家族の子どもたちと活動する中で、私たちは実り多き一年を過ごすことができました。私たちの日本との絆は年々深まっており、JICA日系青年ボランティアの真野由紀を迎えた事で、多くの可能性が広がりました。今後、良い協力者と、グループでの活動、仕事の連携と役割分担を持つこととによって、私たちのプロジェクトと子どもたちにとって、より多くのことが可能になると思います。今年には困難を伴う挑戦の一年でしたが、自分たちの力を再確認し、これからも勇気と成功をもって続けていきたいと思います。



## 第三回 ブラジル料理教室

今回で三回目となるブラジル料理教室。今回は、パオン・ジ・ケージョ（もちもちチーズパン）、ブラジル風プリン、ポロロ・ジ・セノーラ（にんじんケーキ）を作ります。教えてくださるのは、前回に引き続き柴田フアビアーナ瑞江さん。日本での光の子どもたちの会の活動に様々な面で協力して下さっています。毎回アットホームな雰囲気の中、ブラジル料理を参加者全員で協力しあって作り、会食しています。ブラジルに行ったコトがある人、ブラジル料理に興味がある人、どなたでも大歓迎です。皆で美味しいブラジル料理を味わいましょう！

**第三回 ブラジル料理教室**  
 2012 1/28 (土) 11:30-15:30  
**西地区センター**  
 横浜駅西口より徒歩 10分  
 西公会堂と併設、地図参照



**ご注意!**  
 以前配布のチラシと場所が変更です。  
 神奈川県横浜市西区岡野 1-6-41  
 045-314-7734

## カノア大同窓会

カノアに行ったことのある人、カノアに行ってみたく思っている人、全員集合！カノアの思い出をみんなで語り合ひましょう。  
 日程：平成二十四年三月  
 場所：未定

## 遠足に行きました

10月16日(日)、毎年恒例の子どもの日の遠足に行きました。みんなで一台のトレーラーに乗って向かったのはジャグアリヴィ川。観光船に乗って、マングローブが生い茂る川を下りました。初めての体験に、子どもたちは終始おおはしゃぎ。いつもはカメラ嫌いの子もこの日は最高の笑顔で写真に写ってくれました。



## 日本祭を開催しました

11月5日(土)、日本人ボランティアによる恒例の日本祭を開催しました。学童教室の子どもたちはよさこいソーランと、勇気100%のダンス披露を行いました。食事として提供した餃子と炒飯は、いつもの焼きそばの人気には敵いませんでした。しかし、パリヤーノ市から来て頂いた下川道場の方々の柔道は迫力満点。子どもたちは柔道の技に釘付けになっていました。

## エステヴァン日本語教室 スピーチ発表会

ボランティア 真野 由紀

夜間に開講した日本語教室では、11～16歳を中心とする7人の生徒たちが3ヶ月間、カタカナ・ひらがなと日常会話を勉強しました。生徒たちが一番気に入ったのは、曜日覚える歌と、一人二人…を数える歌でした。授業が終わっても歌いながら家に帰る姿がとても微笑ましく、また私自身のモチベーションに繋がるものでした。2011年最後の授業でスピーチ発表会を行いました。ポルトガル語の作文を私が日本語訳し、各々が日本語で発表しました。光の子どもたちの学校が創立された2000年から保育園に通った初代の生徒、マリーザ(16歳)は、現在情報処理科の公立高校に通っています。人一倍真面目で頑張り屋のマリーザのスピーチを紹介します。



## 私が住んでいるところ

マリーザ・バチスタ・ダ・シウバ

私はカノア・ケブラーダのエステヴァン村に16年住んでいます。ここはとてもきれいで静かです。私のお父さんは、エステヴァン村がどうやって誕生し、どうやって発展したのか、私にいろいろ話をしてくれます。

エステヴァン村は、土地を守るために奮闘したコミュニティーです。だから、みんなと住民にとって一番良い方法を探し、みんなができる限り手伝ったり、参加したりしてみんなに感謝しています。それはとても素晴らしいことだと思います。この人は、他の人とたくさん協力します。だから、手伝ってくれる近くの人を探します。それはとても良いことです。思いやりと愛情がその都度深まります。子どもたちは、いろいろなスポーツ活動に参加します。そして、村をたくさん探検します。夕方には夕日を見に行きます。そして、毎月行われる行事、ルアウ・コムニタリオがあります。そこでは、コミュニティーが集まって、たくさんの歌と喜びで昔のことを思い出します。

私は海に行くこと、歩くこと、ジャンガーダに乗ることが好きです。夜になると、もっときれいになります。空は星いっぱいになり、月が明るくなります。だから、私はこの村が大好きです。



## 学童教室、子どもたちの砂絵

ボランティア 真野 由紀

学童教室で3ヶ月間、日本語の授業を行い、2011年最後の授業では、子どもたちと砂絵を実施しました。砂絵は私が一番やりたかった活動の一つだったので、子どもたちが楽しそうに製作する姿を見てとても嬉しかったです。

使用した砂は、子どもたちが海岸から拾ってきたカノアの自然の砂です。天然の黄色、白、オレンジ、黒を使い、それ以外の色は絵具で着色して使用しました。カノアでは、ガラス瓶に入った砂のアートが有名なお土産にもなってたくさん売っています。

子どもたちは思い思いにクレパスで海や花の絵を書き、その上から好きな色の砂を重ねていきました。予想以上に子どもたちは手先が器用で、多くの子が筆の代わりに指に糊を付け、指できれいに砂の形を整えていました。一番驚いたのは、糊を置く全員分のお皿が無いとマルシアノ先生に相談したところ、「レンガのかけらを使えば良い」と言って、急遽教室の外に落ちているレンガを拾ってお皿代わりに使ったことです。普段何気なく見過ごしていた道端のレンガが、あらゆる使い道を秘めているということに気づいた瞬間でした。

母親と離れて暮らすアドリアン(11歳)は、母親の名前「ルシアーナ」を入れた絵を描き、海に映る夕日を描いたサラ(11歳)は「カノア・ケブラーダは美しい。これからもずっと。」という言葉に添えました。優しさを溢れる子どもたちの絵から、彼らの感性や表現力の豊かさを感じることができました。最後に初めての砂絵の感想を聞くと、「Adorei!! (すごく気に入った!!)」と言ってもらったので、今年最後の授業を気分良く終えることができました。



## 歯科検診

前号(48号)でお伝えしました、慶応大学医学部国際医学研究会(IMA)による8月に実施された活動に同行していた日系人の歯科医、Leo Hida氏が10月末に再びカノアを訪れてくれました。私たちの活動に共感してくれ、母親(肥田文子さん)と共に来てくださったのです。歯科検診は2日間実施され、2~13歳までの49名を診察してくれました。今回の活動は事前にアラカチ市保健局に報告してあり、治療の必要な子どもたちに対してはカノア保健所で優先的に受け入れてもらうことになっています。

歯磨き指導を中心として、虫歯などの治療の必要性だけでなく、例えば前歯の乳歯が一本抜けないうま既に12歳になっている子どもに対しては、レントゲンの必要性和、どのような処置が必要とされるかという説明まで丁寧にしてくださいました。また、700本の歯ブラシと、20個の歯磨き粉を寄贈していただきました。一緒に来られていた文子さんは折り紙や絵画の指導をして下さり、歯科検診に花を添えてくださいました。

今回の検診で、19名が要治療とされ、一部の子ども達は既にカノア保健所で治療を受けました。矯正治療の必要な子どもに対してはフォルタレーザ大学の支援をいただき、無料で治療ができるように手続きをしているところです。

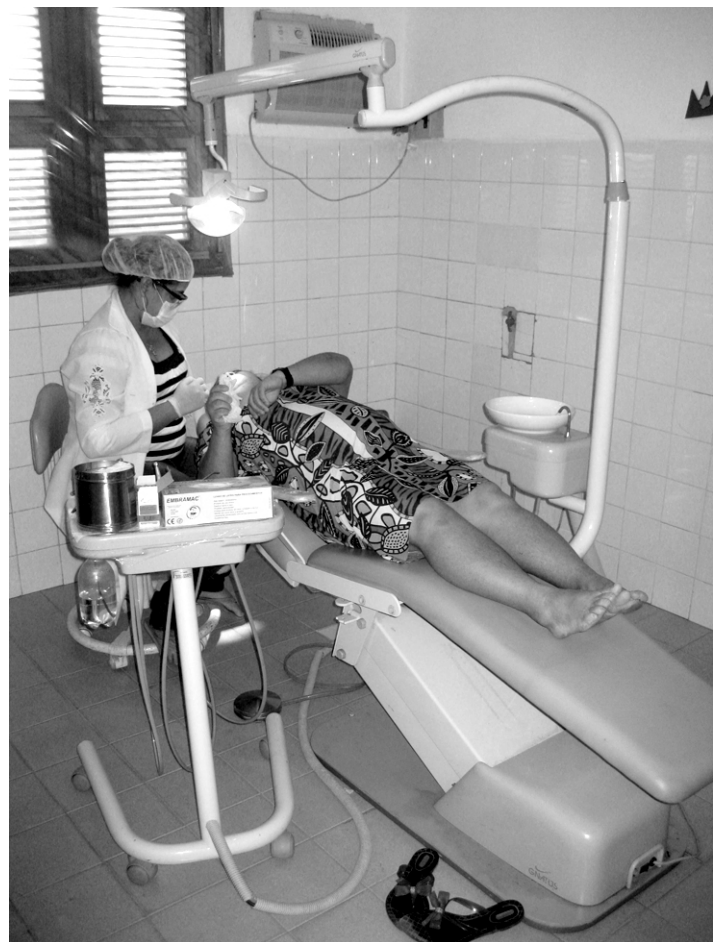
Leo氏と肥田文子さんには心から感謝の意を伝えるとともに、歯磨きの必要性、大切さをこれからも積極的に子どもたちに伝えていけたらと思っています。



## カノア保健所に歯科器具を寄贈

フォルタレーザ市に住む歯科医院を営む知人から、歯科器具寄贈の話がありました。初めは私たちの保育園もしくはコミュニティセンターにのこことだったのですが、常勤の歯医者がない場所では仕方がないということ、一人でも多くの子ども達(住民)を治療してもらいたいという思いから、カノアの保健所に寄贈することを了承してもらい、2011年9月19日に設置が完了し、新しい装置での治療が開始されました。未だに多くの課題があり、通常の器具補修もままならない状況ではありますが、これからは「私たちにできることを」を合言葉に、地域に貢献していけたらと思っています。

歯科器具を寄贈してくれた Perboyre Gomes Castelo Júnior 氏、本当にありがとうございました。



## 子育て日記より

二〇〇九年まで、ブラジルの義務教育では七歳で小学校に入学し、小・中学校の八年生まで通学することとなっていました。しかし現在は日本と同じで六歳で小学校に入学し、小・中学校の九年生までと変わりました。以前は六歳児はプレ・エスコールと呼ばれる、いわば識字教室に通っていて、そこを卒業し、晴れて小学校入学となっていたわけですが、我が家の長女は現在小学一年生なのですが、ブラジルでは昔の名残が今も残っており、小学一年生(六歳児)の終了式に『卒業式』が執り行われます。これが思っていたよりも大変です。毎回テーマにそってイベントが実施されるのですが、今回のテーマはシンデレラらしく、女の子はすべてシンデレラの衣装を着なければいけません。そのドレスも特注で作ってもらうのです。そして、それに向けてのあれやこれや…初めてのことづくしで驚きがいっぱいです。この時期に『卒業式』が必要かどうかと聞かれると「いらぬ」と正直思います。しかし、いくら法律上の数字が変わっても、文化というものは生き続けるものなのだと、興味深く準備に取り組んでいる私です。

## ベビーキルトの会との活動協力

前号でお伝えしたベビーキルトの会との活動協力ですが、既に私がカノアで保管しているキルトをフォルタレーザの貧しい地域に住む母親たちにお渡ししました。日本滞在中に訪問したベビーキルトの会3団体。ここでは、ベビーキルトの寄贈先をカノア・ケブラーダ地区に限らず、私たちの活動と関わりのある地域にもお渡ししていきたいという意向をお伝えしました。ベビーキルトかわさき、ベビーキルト野の会、ベビーキルトなのはな、上村春子さんからは暖かいお言葉をいただくことができ、この度、初めてカノア・ケブラーダ地区以外の母親に届けることとなりました。

本当に素敵で温もりのあるキルト。今後も上記に挙げた団体の他、エイトポイントスターを含めた4団体と上村さんが作成されたキルトを一人でも多くの母親、子どもに届けていきたいと思っております。そして、このキルトから勇気や力をもらい、元気に育っていつてくれることを心より願っております。

\*ベビーキルトの会にご興味のある方は日本事務局までご連絡いただけますよう、お願い致します。



## かながわ国際交流財団の支援によるプロジェクト

かながわ民際協力基金より、『ブラジル東北部の貧しい漁村における、青少年を含めた地域住民への地域子育て事業』として2011年10月1日より事業を開始しました。地域の拠点として、私たちの活動を生かし、現在各分野の専門家とのネットワークを確立しています。地域で子育てをするということは、家族に対する直接支援の他に、地域に存在する専門家の情報を共有し、有効的なケアの実践を保証することも大切な役割の一つです。こうした動きに対し、私たちだけでは賄いきれない専門的なことを、アラカチ市保健局、社会福祉局を中心とした専門家チームと共に実施していき、それを地域に根差していくことが今回のプロジェクトにおける大きな目玉となっています。現在、地域で活動している各分野の専門家、教師、保健師、看護師、ソーシャルワーカー、心理士に加え、新たに言語聴覚士、栄養士、作業療法士との連携を確保することができました。これら専門家による、地域の家族に対する講習会のみならず、専門家同士の情報の共有も開始されたことで、今後に大きな期待が寄せられています。地域に根差した、継続的な支援につながるよう努めていきたいと思っております。

## JICA 基金の支援によるプロジェクト

JICA 基金より、『ブラジル・公立小学校と連携した学童教室実施による、学校教育改善事業』として2011年11月17日より事業を開始しました。学校以外の時間に地域やNGOが率先して子どもを受け入れ、学童教室という形で不足している教科を補うと同時に、授業日数を確保し、学校生活を安定させるために、地域と学校が協力して子どもを育て、教育していくことができるようにすることを目的として行われます。

私たちが実施している学童教室は、カノアの公立小・中学校と共に活動を行ってきていましたが、校長先生が変わり、ここ3年ほどは教師の入れ替わりも激しいことからなかなか連携した活動を実施するには至りませんでした。しかし、同じ子ども達を受け入れているという事実は変わっておらず、9月の学童発表会には学童教室に通っている子どもと同じクラスの生徒が教師や主任の先生と一緒に観劇に来ました。普段小学校の教室で見る生徒達とは異なる姿勢や態度を目の当たりにした学校の教職員は継続した交流をお願いしたいと要望してくれています。

私たちだけ、公立の学校だけでは実現できないことも、連携していくことで可能性は大きく広がっていくと、今後の活動に期待しています。

## ありがとうございます!!!

平成 23 年 9 月 6 日～平成 23 年 11 月 30 日現在までに会費及び寄付を頂きました皆さま及び物資支援を頂きました皆さまのお名前を下記に記載いたしました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。これからも一人でも多くの方に会員になって頂き、カノアの活動を共に支えていただけたら嬉しいです。目標会員 100 名!!

\*会費及び寄付を頂きました皆様

残念ながら会費及び寄付の受領はありませんでした。  
(団体が設立されて以来、初めての空欄です)

\*物資支援を頂きました皆様 (以下順不同)

Dr. Leo Hida / 肥田 文子さま

## 「学資支援」のお願い

ブラジルでは「子どもと直接かかわる職業の人はすべて、大学の教育学部に通学もしくは卒業していること」ということで、私たちの現地スタッフの内 2 名 (フラビアーニとパトリッシア) は現在大学に通学しています。私立のため一人当たり: 授業料 (月謝) + 交通費 + 教材費 = 約 18000 円 (R\$300.00) が掛かることとなり、その半分を支援していこうというプロジェクトです。

現在、毎月約 18000 円 (二人分) を学資支援しています。支援方法は、会員の支払い方法と同じです。但し、コメント欄に『学資支援』と書いていただけますよう、お願いいたします。

## 交流誌 めたもるふおーぜ

「光の子どもたちの会」を設立する直前から執筆させていただいている交流誌、「めたもるふおーぜ」。この交流誌は、人智学を学んでいる方々の交流の場として長年発行されてきました。私は他の原稿執筆者とは大きく異なり、人智学やシュタイナー教育といったものを他の人に伝えるようなことはできません。ただ、私がカノアで行っている活動から得たこと、感じたことを皆さんに知っていただくことで、何か学びとなればと思って書かせていただいています。正直に言うと、私自身の学びの場であるのですが、毎月原稿を書いていると、その 1 ヶ月の出来事が頭をめぐり、一番印象に残っていること、伝えたいと思っていることが「これだ!」と頭にひらめいてきます。私はそれをただ文字にしているだけなのです。しかしこの作業が、自分自身の生き方、活動を振り返り、前進する大きな役割となっていることについて最近気づかされました。この交流誌が休刊になるという話を聞き、本当に驚きました。しかし 2011 年 11 月、198 号では、続けてほしいというメンバーが集まり、来年 4 月より新編集部に生まれ変わって継続されるという嬉しいニュースが掲載されていました。私のカノアでの活動、思いが凝縮されている「めたもるふおーぜ」。引き続き執筆していくかどうかはまだ分かりませんが、ご興味のある方はぜひ購読してみてください。

〒 520-2271 滋賀県大津市稲津 2-15-6 (黒川方)

tel / fax : 077-546-4147

e-mail : metamor4se@yahoo.co.jp

http://www.geocities.jp/metamoru4se/

## 会員募集

「光の子どもたちの会」では、会員、協力会員を募集しています。支える会では「手工芸品の販売」「講演会」などにより多少の収入がありますが、充分な額ではありません。会の運営は全てボランティアにより運営されています。1 人でも多くの方々に会員、協力会員になっていただき、この会を支えていただきたいのです。頂きました会員費、協力会員費及び寄附などは、支える会の活動費、運営費となります。会員の方々には年 2 回の会報、講演会や、イベントなどのお知らせを、ブラジル事務局よりお送りいたします。

一般会員: 年会費 5,000 円

協力会員: 年会費 1 口 36,000 円以上任意額

\* 随時寄付やカンパも受け付けております。

\* たったの 100 円でお米 1 kg を買うことができ、子ども一人当たりの保育料に毎月 3,000 円が掛かっています。(活動はすべて無償で行われています)

■ 郵便振替

口座番号: 00280-1-41787

加入者名: 光の子どもたち-カノアの活動を支える会

■ ブラジル銀行 (Banco do Brasil) 口座

Agencia 0121-x

Conta Corrente 26357-5

Associacao Crianças de LUZ

## ボランティアの皆さん、どうもありがとうございました!!

(以下 2011 年 3 月より現在まで)

2011/5/24 ~ 11/8

根村俊哉

学童教室助手、英語教室、日本文化教室実施

2011/7/26 ~ 現在

真野由紀

JICA 日系青年ボランティア、保育園助手、日本文化教室実施他